

保健所等における HIV 検査相談に関する全国調査

研究分担者	今井光信(田園調布学園大学 副学長)
研究協力者	近藤真規子、佐野貴子(神奈川県衛生研究所微生物部)、 大野理恵(神奈川県衛生研究所微生物部 HIV 研究班)、 須藤弘二、加藤真吾(慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室)、 市川誠一(人間環境大学大学院看護学研究科)

研究要旨

HIV 感染者の対策を考える上でも、また、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な位置を占めている保健所等における HIV 検査相談体制の実状を把握し、またその充実を計るため、全国の保健所等 HIV 無料匿名検査実施施設を対象とした HIV 検査・相談に関するアンケート調査を平成 27 年度と平成 28 年度に実施した。なお、平成 28 年度には、梅毒検査についてもアンケート調査を行い、その実施状況を把握し、今後の課題について検討した。

1. 平成 27 年の結果

全国保健所アンケート調査では、565 保健所等施設のうち 484 施設(86%)から回答を得た。HIV 検査を実施している全国 483 施設で 87,856 件の HIV 検査が実施され、そのうち 254 件(0.29%)が陽性で、238 件(94%)が陽性結果を受け取り、その後 208 件(87%)が医療機関に受診していることが確認されていた。感染症法に基づく届け出は、陽性 254 件中 143 件(56%)が自施設からの報告であった。

特設検査相談機関では、24 施設のうち 20 施設(83%)から回答があり、HIV 検査件数 24,412 件のうち陽性は 129 件(0.53%)で、121 件(94%)が結果を受け取り、このうち 113 件(93%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届け出は、129 件中 103 件(80%)が自施設からの報告であった。

2. 平成 28 年の結果

1) HIV 検査相談事業

全国の保健所・支所等 563 施設のうち 469 施設(83%)から回答を得た。HIV 検査相談を実施していた 467 施設で 75,584 件の HIV 検査が実施され、陽性 221 件(0.29%)のうち 209 件(95%)が陽性結果を受け取り、その後 162 件(78%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届出は 221 件中 121 件(55%)が自施設からの報告であった。

特設検査相談機関では、21 施設のうち 17 施設(81%)から回答があり、HIV 検査件数 22,183 件のうち陽性が 138 件(0.62%)で、そのうち 128 件(93%)に結果が伝えられ、その後 108 件(84%)が医療機関に受診していた。感染症法に基づく届出に関しては、特設検査機関では、陽性とわかった 138 件中 119 件(86%)について自施設から報告が行われていた。

2) 梅毒検査

HIV 検査と共に梅毒検査を実施している保健所等施設は 469 施設中 327 施設(70%)で、特設検査相談施設では 17 施設中 6 施設(35%)であった。梅毒検査を行っている保健所の実施状況は、

HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 施設(84%)で、有料検査が 44 施設(14%)であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 施設(34%)、有料検査が 47 施設(14%)であった。HIV 検査と一緒に受けられる施設や梅毒単独で受けられる施設などが混在しており、近年の梅毒の急増からみると、受検者の利用しやすい梅毒検査体制づくりが望まれる。

梅毒検査を実施していない保健所で実施可能となる条件としては、「自治体本庁の方針があれば」の回答が最も多く 94 施設(74%)、予算の増額 54 施設(43%)、マニュアルの配布 31 施設(24%)、職員の増員 31 施設(24%)、医療機関の協力・連携 24 施設(19%)等の意見であった。

3. まとめ

保健所および特設検査相談施設を合わせると、平成 27 年は、受検件数 112,268 件、陽性件数 383 件(0.34%)、359 件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 321 件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成 28 年は、受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。HIV 陽性判明件数のうち感染症発生動向に報告されたのは、保健所では平成 27 年が 56%、平成 28 年が 55%、特設検査相談施設では 80%、86%であった。

近年の郵送検査等での HIV 受検件数の急激な増加もあり、新たな HIV 検査システムの活用についての検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

A. 目的

HIV 感染者の対策を考える上でも、また HIV 感染予防対策を考える上でも重要な位置を占めている保健所およびその支所等(以下、保健所)、東京都南新宿 HIV 検査・相談施設等の特設検査相談施設(以下、特設検査相談施設)における HIV 検査相談体制の実状を把握し、またその充実を計るため、全国の保健所および特設検査相談施設を対象に HIV 検査相談の検査体制・相談体制に関するアンケート調査を平成 27 年度と平成 28 年度に実施した。平成 28 年度には HIV 検査に加えて、梅毒検査についても保健所等での実施状況を把握するため HIV 検査と同時にアンケート調査を実施した。

B. 研究方法

全国の保健所の HIV 検査相談施設と特設 HIV 検査相談施設を対象に、HIV 検査相談及び梅毒検査(平成 28 年のみ)に関するアンケート調査票を郵送し、返送用封筒によりアン

ケート調査票を回収し、結果の解析を行った。

1 月～12 月までの 1 年間のデータを解析するため、平成 27 年度は、全国の保健所およびその支所等 565 施設、特設検査相談施設 24 施設を対象に、平成 28 年 1 月 5 日にアンケート調査票を郵送し、平成 28 年 1 月 23 日を締め切り日とした。

平成 28 年度は、全国保健所およびその支所等 563 施設、特設検査相談施設 21 箇所を対象に、平成 29 年 1 月 4 日に HIV 検査相談及び梅毒検査に関するアンケート調査票を郵送し、平成 29 年 1 月 20 日を締め切り日とした。

C. 研究結果

1. 保健所における HIV 検査件数および陽性判明の状況

平成 27 年(2015)、同 28 年(2016)の保健所からのアンケート調査集計結果を資料 1 に示した。

アンケート調査の回収率は、平成 27 年

85.7%、28年83.3%で、全国保健所・支所等のほぼ全体像を把握することができた。HIV検査を実施している保健所での検査件数は、平成27年87,856件、平成28年75,584件で、HIV陽性判明施設数は各々119施設(24.6%)、111施設(23.8%)で4施設に1施設の割合であった。また陽性件数は各年で254件、221件で両年共に0.29%の陽性率であった。

1)年間検査件数別保健所数およびその陽性率
年間検査数50件未満の保健所・支所等は両年共におよそ40%を占め、検査件数の占める割合は5%(およそ4,000件)と多くはないが、陽性率が全体の平均陽性率0.29%と大差はなく、それぞれの地域で一定の役割を果たしていることがわかった。

一方、年間検査数1,000件以上の保健所は平成27年11施設(2.3%)、28年9施設(1.9%)あり、検査件数は延べ18,249件(20.8%)、14,706件(19.5%)、陽性件数は66件、59件、陽性率はおよそ0.4%と全国平均0.29%に比べてかなり高い。これら保健所の検査施設のほとんどが東京、大阪、名古屋等の都市部にあり、感染リスクのより高い受検者の利用が多いためと思われる。

2)HIV検査結果の受け取り状況

HIV検査結果を受け取りに来なかった受検者は、保健所全検査件数のうち1.9%、2.4%で、検査結果が陽性であった者では平成27年6.3%、平成28年5.4%と、陰性であった者に比して多い傾向にあった。なお、即日検査と通常検査で比べると(表には示していない)、結果を受け取りに来なかった受検者率は、即日検査では1.1%(陰性例)と4.7%(陽性例)、通常検査では4.3%(陰性例)と7.3%(陽性例)で、即日に比べ通常検査では陰性時・陽性時の双方において結果を受け取りに来ない受検者の率が高い傾向にあった。

3)陽性者の医療機関受診の把握について

陽性者が医療機関を受診したかを把握する仕組みは、陽性経験のある保健所の80%程度

が有しているのに対して、陽性経験のない保健所では18%程度であった。

陽性結果の受け取り率は、平成27年93.7%、平成28年94.6%、そのうち医療機関を受診したことが把握できた割合は87.4%、77.5%であった。

4)感染症法に基づく届け出について

HIVの確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、平成27年は56.3%、同28年は54.8%の保健所の者が、保健所から報告が行われていた。残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していた。

2. 特設検査相談施設におけるHIV検査件数および陽性判明の状況

平成27年(2015)、同28年(2016)の特設検査相談施設からのアンケート調査集計結果を資料2に示した。

アンケート調査は、平成27年20施設(83.3%)、同28年17施設(81.0%)から把握することができた。特設検査相談施設での検査件数は、平成27年24,412件、平成28年22,183件で、HIV陽性判明施設数は各々14施設(70.0%)、13施設(76.5%)であった。また陽性件数は各年で129件(陽性率0.53%)、138件(同0.62%)であった。

1)年間検査件数別保健所数およびその陽性率
年間に1,000件以上の施設が5施設あり、これらの延べ検査件数が全体の67%、73%を占めていた。また、陽性件数も平成27年97件、同28年121件と大半を占め、陽性率は0.6%、0.74%と高かった。しかし、これよりも少ない年間検査件数の施設でも陽性率は保健所に比して高く、感染リスクの高い受検者が利用している可能性が示唆された。

2)HIV検査結果の受け取り状況

HIV検査結果を受け取りに来なかった受検者は、特設検査相談施設の全検査件数のうち1.5%、2.1%で、検査結果が陽性であった者では平成27年6.2%、平成28年7.2%と、保

健所と同様に、陰性であった者に比して多い傾向にあった。

3) 陽性者の医療機関受診の把握について

陽性者が医療機関を受診したかを把握する仕組みはほとんどの施設が有していた。

陽性結果の受け取り率は、平成 27 年 93.8%、平成 28 年 92.8%、そのうち医療機関を受診したことが把握できた割合は 93.0%、84.0%であった。

4) 感染症法に基づく届け出について

HIV の確認検査陽性例の感染症法に基づく届け出に関しては、平成 27 年は 79.8%、同 28 年は 86.2%の者について、自施設からの報告が行われていた。残りは紹介先の医療機関に届け出を依頼していた。

5) 保健所と特設検査相談施設での検査状況

保健所および特設検査相談施設を合わせると、平成 27 年は、受検件数 112,268 件、陽性件数 383 件(0.34%)、359 件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 321 件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成 28 年は、受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。

HIV 陽性判明件数のうち感染症発生动向に報告されたのは、保健所では平成 27 年が 56%、平成 28 年が 55%、特設検査相談施設では 80%、86%であった。

3. HIV 検査以外の性感染症検査について

保健所において、HIV 検査と同時に性感染症検査を行っている施設は、平成 27 年 411 施設(85.1%)、同 28 年 415 施設(88.9%)であった。その内訳は、梅毒検査が最も多く(およそ 77%)、次いで B 型肝炎(およそ 75%)、C 型肝炎(およそ 72%)であった。クラミジア抗原、クラミジア抗体はおよそ 30%、淋菌は 10%程度であった。梅毒検査及び B 型肝炎と C 型肝炎のウイルス検査に関しては、70%を上回る施設で実施されていることが分かった。

特設検査相談施設で性感染症の検査を同時に実施していた施設は、平成 27 年 7 施設(35.0%)、同 28 年 8 施設(47.1%)で、その内訳は梅毒検査、B 型肝炎が多く、淋菌、C 型肝炎、クラミジアは少ない状況であった。

4. 受検者への対応に関する状況

平成 27 年と同 28 年では、ほとんど類似した結果であったことから主に 28 年の回答を中心に述べる。

1) 受検者について把握している内容

受検者に関する情報として、ほとんどの保健所では、性別と年齢・年代について把握しており(資料 1、2-⑥)、受検動機について 86%、感染機会の時期について 82%、感染リスクについて 73%、受検経験について 72%の保健所が把握していた。一方、居住地については 45%、性的指向については 43%の把握状況であった。なお、これら把握した情報を事業改善等に活用していた保健所は 60%程度で 30%ほどの保健所は活用していない状況であった。特設検査相談施設では、性別と受検経験については全ての施設が把握しており、性的指向について(94%)、感染リスクについて(88%)、居住地域・受検動機・感染機会の時期・情報源について(82%)などが多くの施設で把握されていた。

2) 結果説明について

結果説明の担当者についてみると、保健所の平成 28 年調査では、確認検査陽性時の担当者として医師が 98%、保健師・看護師が 86%、カウンセラー等が 27%関わっているとの回答であった。迅速検査(即日検査)陽性時の結果説明における担当者は、医師が 83%、保健師・看護師が 88%、カウンセラー等が 13%であった。一方、陰性時の説明担当者では、医師 40%、保健師・看護師 80%、カウンセラー等が 14%と、陽性事例とは異なる対応が見られていた。

陽性者への対応として、カウンセラーの派

遣が可能かとの質問には、経験を有する施設が23%、実績はないが可能が22%、できないが41%であった。

特設検査相談施設における結果説明の担当者に関しては、確認検査陽性時には担当者として医師91%、保健師・看護師27%、カウンセラー等54%が関わっていた。迅速検査(即日検査)陽性時の結果説明における担当者は、医師92%、保健師・看護師31%、カウンセラー等54%との回答であった。一方、陰性時の説明担当者では、医師60%、保健師・看護師35%、カウンセラー等35%であった。

陽性者への対応におけるカウンセラー派遣については、派遣経験ありが5施設(29%)、実績はないが可能が5施設(29%)、できないが3施設(18%)であった。

3) 感染予防の行動変容への働きかけについて

感染予防の行動変容を働きかける相談については、保健所、特設検査相談施設において94%とそのほとんどがおこなっていた。保健所の83%、特設検査相談施設の63%が全員に実施し、検査後の結果説明時が25%(保健所等)、63%(特設)、検査前と両方で行うが57%(保健所等)、38%(特設)であった。

4) 対応困難者の経験とその対応について

対応困難者の経験を有する施設は保健所が39%、特設検査相談施設が71%であった。その際の紹介先を有している施設は22%(保健所等)、18%(特設)と少なかった。紹介先としては、医療機関が62%(保健所等)、NGO等が24%(保健所等)、100%(特設)であった。

5) 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)について

血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)の経験を有する保健所は139施設(30%)、特設検査相談施設では8施設(47%)であった。その状況としては、保健所では、針刺し事故60件、血液に触れたが23件、不安が12件であった。

6) 未成年の検査希望者への対応について

未成年の検査希望者への対応について通常通り行う施設は保健所が78%、特設検査相談施設が59%、特別な配慮を行うは、保健所では87件(19%)、特設検査相談施設では6施設(35%)であった。保健所等の検査相談施設における特別な配慮の内容としては、陽性時には親にも説明が29件、保護者の同意について質問が21件、丁寧なカウンセリングが9件、年齢により対応を考えるが16件であった。

特設検査相談施設においての特別な配慮としては、陽性時には親にも説明が1件、本人との相談により判断が3件、結果により検討が2件であった。

7) 日本語のわからない外国籍の人の受検

保健所で日本語のわからない外国籍の人の受検ができる仕組みのある施設は153施設(33%)で、その対応言語については、英語が99施設、中国語46施設、ポルトガル語40施設、韓国語・朝鮮語36施設、スペイン語37施設、タイ語19施設、タガログ語・フィリピン語17施設、ベトナム語7施設、ロシア語3施設であった。

特設検査相談施設では、外国籍の人の受検ができる仕組みを有するのは8施設(47%)で、その対応言語については、英語5施設、ポルトガル語1施設であった。

8) 「HIV検査・相談マップ」の利用

ホームページ「HIV検査・相談マップ」を閲覧したことがある保健所は438施設(93%)で、多くの保健所が活用していた。「HIV検査・相談マップ」がHIV検査相談事業に役立っているとの回答は372施設(80%)からあった。また、特設検査相談施設の全施設がホームページ「HIV検査・相談マップ」を閲覧し、HIV検査相談事業に役立っているとの回答であった。

5. 梅毒検査体制について

梅毒検査体制に関する調査結果は資料3、資料4に示した。保健所・支所等563施設の

うち 469 施設(83%)から、特設検査相談施設では21施設中17施設(81%)から回答を得た。

1) 梅毒検査の実施の有無と可能性について

保健所で梅毒検査を実施している施設は327施設(70%)、実施予定が13施設(3%)、実施していないが127施設(27%)であった(資料3)。

実施していない保健所では、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問に、「自治体本庁の方針があれば」が最も多く94施設(74%)、「予算の増額」54施設(43%)、「マニュアルの配布」31施設(24%)、「職員の増員」31施設(24%)、「医療機関の協力・連携」24施設(19%)等の意見であった。

特設の検査相談施設においては、梅毒検査を実施している施設が6施設(35%)、実施予定が1施設、実施していないが10施設(59%)であった(資料4)。実施していない施設において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、「自治体本庁の方針があれば」「予算の増額」が各4施設(40%)、「マニュアルの配布」2施設(20%)、「即日で信頼できる試薬」が3施設(30%)、「医療機関の協力・連携」1施設(10%)等の意見であった。

2) 梅毒検査の実施形態

保健所の梅毒検査実施状況は、HIV検査と一緒に受けられる無料検査が275施設(84%)で、有料検査が44施設(14%)であった。梅毒検査のみで無料で受けられる施設が110施設(34%)、有料検査が47施設(14%)であった。なお、有料の場合の費用については、500円以下が14施設、500円～1,000円が25施設、1,500円～2,000円が40施設であった。

特設検査相談施設では実施している6施設において、HIV検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

3) 梅毒検査の方法と検査数・陽性数・陽性率について

STS法による検査を行っている保健所は

259施設(79%)で、その検査数は37,625件、陽性は463件(1.2%)であった。TP抗体検査を実施しているのは、290施設(89%)で、その検査数は33,744件で陽性は846件(2.5%)であった。

特設検査相談施設では、STS法による検査を行っているのは4施設で、その検査数は6,665件、陽性は428件(6.4%)であった。TP抗体検査を実施しているのは6施設で、その検査数は1,471件で陽性は413件(28%)であった。

4) 梅毒検査陽性時の対応について

保健所では、医療機関を紹介するが206施設(63%)で、結果説明のみが77施設(24%)であった。なお、梅毒検査の結果返しに関しては、即日が64施設(20%)、2日～1週間が179施設(55%)、1週間～2週間が85施設(26%)であった。

特設検査相談施設においては、医療機関を紹介するが3施設で、結果説明のみが3施設であった。梅毒検査の結果返しに関しては、2日から1週間が3施設、1週間～2週間が1施設であった。

5) 梅毒検査の頻度・時間帯等について

保健所での梅毒検査の頻度は、月1回以下が67施設(21%)、月2～3回が97施設(30%)、月4回以上が158施設(48%)であった。また、予約については必要が210施設(64%)、必要なしが112施設(34%)であった。

D. 考察

1. HIV検査体制について

平成20年をピークに、その後は新型インフルエンザ、東日本大震災等の影響もあり、国民全体のHIVへの関心が下がり、保健所等におけるHIV検査相談数も平成21～22年と大きく減少し、その後は横ばい状態となり、平成27、平成28年の保健所アンケート調査においてもその状況が続いていることが分かった。

保健所および特設検査相談施設を合わせる

と、平成 27 年は、受検件数 112,268 件、陽性件数 383 件(0.34%)、359 件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 321 件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成 28 年は、受検件数 97,767 件、陽性件数 359 件(0.37%)、337 件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの 270 件(80.1%)が医療機関を受診していた。なお、HIV 陽性判明件数のうち感染症発生動向に報告されたのは、保健所では平成 27 年は 56%、平成 28 年は 55%、特設検査相談施設では 80%、86%であった。保健所によっては陽性結果を受け取りに来た受検者を医療機関に紹介し、その医療機関から発生動向報告を依頼している。

通常検査・即日検査の実施状況に関しては、通常検査のみが 144 施設(31%)、即日検査のみが 213 施設(46%)、通常検査と即日検査が 110 施設 24%で、その比率は昨年とほぼ同じであった。また検査の曜日、時間帯に関しては、平日昼のみが 227 施設(49%)、平日夜間検査が 174 施設(37%)、土日検査が 66 施設(14%)と、その比率も昨年と比べほぼ同じであった。全国的にみると検査相談の実施形態に関してはこの数年ほぼ定常状態が続いていることが分かった。

また、保健所等における HIV 検査相談は、HIV 感染予防対策を考える上でも重要な役割を有するものであるが、それと関連したアンケート調査では、行動変容を働きかける相談に関しては、保健所の 94%、特設検査相談施設の 94%とそのほとんどが、受検者への感染予防の働きかけを行っていると回答している。

受検者について把握している内容として、性別・年齢・年代、受検動機、受検経験、感染リスク、感染機会の時期については 70%以上の保健所や特設検査相談機関が把握していると回答している。一方、性的指向に関しては特設検査相談施設の 94%が把握していると回答していたのに対して、保健所では 43%であった。また、これらの内容を事業改善等

に活用していた保健所は 59%で、活用していないと保健所が 33%あった。各施設の状況・受検者層に配慮した把握内容の検討とその把握内容の活用に関しては今後の施設における課題と考える。

近年、HIV 郵送検査等で HIV 受検件数が急激に増加していることから、新たな HIV 検査システムの活用について検討する必要があると言われている。しかしながら、検査結果の対面による十分な説明とその結果として医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、そして感染予防のための重要な役割を果たしており、その充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱であると思われる。

2. 梅毒検査体制について

梅毒検査体制に関するアンケート調査では、HIV 検査と共に梅毒検査を実施していると回答のあった保健所等施設は 469 施設中 327 施設(70%)で、特設検査相談施設では 17 施設中 6 施設(35%)であった。実施していない保健所において、どのような条件があれば梅毒検査が可能となるかについての質問には、自治体本庁の方針があればとの回答が最も多く 94 件(74%)、予算の増額 54 件(43%)、マニュアルの配布 31 件(24%)、職員の増員 31 件(24%)、医療機関の協力・連携 24 件(19%)等の意見であった。特設の検査相談施設においては、自治体本庁の方針があればと予算の増額とが各 4 施設(40%)、マニュアルの配布 2 施設(20%)、即日で信頼できる試薬が 3 施設(30%)、医療機関の協力・連携 1 施設(10%)等の意見であった。

梅毒検査を行っている保健所での実施状況に関しては、HIV 検査と一緒に受けられる無料検査が 275 件(84.1%)で、有料検査が 44 件(14%)であった。梅毒検査のみで受けられる場合、無料検査が 110 件(34%)、有料検査が 47 件(14%)であった。なお、有料の場合の

費用については、500円以下が14件、500円～1,000円が25件、1,500円～2,000円が40件であった。特設の検査相談施設では実施している全ての6施設において、HIV検査と一緒に受けられる無料検査として梅毒検査を実施していた。

梅毒検査の方法と結果については、STS法による検査を行っている保健所は259件(79%)で、その検査数は37,625件、陽性は463件(1.4%)であった。TP抗体検査を実施しているとの回答は、290件(89%)で、その検査数は33,744件で陽性は846件(2.5%)であった。特設検査相談施設においては、STS法による検査を行っている施設は4施設で、その検査数は5,825件、陽性は369件(6.3%)であった。TP抗体検査を実施しているとの回答は、6施設で、その検査数は1,412件で陽性は356件(25%)であった。

梅毒検査陽性時の対応について、保健所等では、医療機関を紹介するが206件(63%)で、結果説明のみが77件(24%)であった。特設検査相談施設においては、医療機関を紹介するが3施設で、結果説明のみが3施設であった。

保健所や特設検査相談施設における梅毒検査は、HIV検査と一緒に受けられる施設や梅毒単独で受けられる施設などが混在しており、近年の梅毒の急増からみると、受検者の利用しやすい梅毒検査体制づくりが望まれる。

3. 検査結果の通知について

本アンケート調査を開始する一つのきっかけでもあった検査結果の誤通知に関しては、平成27年においてはHIV検査に関して3件の誤通知があったが、平成28年においてはHIV検査に関しての報告は0件であった。しかしながら、STI検査に関して、梅毒検査で1件、クラミジア検査で1件、合計2件の誤通知事例があった。梅毒検査の例では、検査の段階での検体の取り違えが原因で、クラミジア抗体検査の例では、検査機関での性別の記載間

違いと、結果通知の段階で性別による判断を優先して番号確認を怠るという二重のミスが重なったことが原因であった。いずれのケースでも、その後正しい結果を受検者に伝えることができたとのことであり、また、その後は再発防止策の強化に努めているとのことであった。保健所等におけるHIV検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや、結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名(番号・記号)による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

今回の例からも、誤通知事例はどの施設でも起こりうることを共通認識として共有し、衛生研究所や民間検査機関においても、また、保健所等、検査相談機関、においても、誤通知等の発生防止に向けて継続した努力と注意喚起が今後とも必要である。

D. 結論

保健所および特設検査相談施設で行われているHIV抗体検査・相談の実態についてほぼ全数を把握した。

保健所および特設検査相談施設を合わせると、平成27年は、受検件数112,268件、陽性件数383件(0.34%)、359件(93.7%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの321件(89.4%)が医療機関を受診していた。平成28年は、受検件数97,767件、陽性件数359件(0.37%)、337件(93.9%)に陽性結果が伝えられ、そのうちの270件(80.1%)が医療機関を受診していた。

HIV陽性判明件数のうち感染症発生動向に報告されたのは、保健所では平成27年は56%、平成28年は55%、特設検査相談施設では80%、86%であった。

近年、郵送検査等でのHIV受検者の著しい増加がみられる新たなHIV検査システムの活用についての検討の必要性が高まっている。しかしながら、検査結果の対面による十分な

説明、そして医療機関への受診へと繋げていく保健所等の HIV 検査相談体制は、HIV 感染者の早期発見と早期治療、感染予防のための相談など重要な役割を果たしている。これらの体制の充実は今後とも HIV 対策の基本となる必須な柱である。

保健所および特設検査相談施設における梅毒検査の実施状況を調査した。HIV 検査と一緒に受けられる施設や梅毒単独で受けられる施設などが混在しており、近年の梅毒の急増からみると、受検者の利用しやすい梅毒検査体制づくりが望まれる。

なお、保健所等での HIV 検査は匿名であることもあり、その結果の受け渡しや結果の確認に関しては、より慎重な対応が必要である。今後とも、結果の確認や転記ミスの防止、匿名(番号・記号)による本人確認の徹底等により誤通知事例の再発防止に努めることが重要である。

謝辞

保健所の様々な業務で忙しい中、アンケート調査にご協力頂いた全国の保健所および特設 HIV 検査相談関係者の皆様方に深く感謝致します。

E. 発表論文等

1. 論文発表

- 1) 佐野貴子、加藤真吾、今井光信、HIV 無料・匿名検査相談の役割—保健所等 HIV 無料・匿名検査相談施設における HIV 検査の現状と課題—、日本エイズ学会誌、17:125-132、2015.
- 2) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾、HIV 郵送検査の現状と展望、日本エイズ学会誌、17:138-142、2015.

2. 学会発表(国内)

- 1) 佐野貴子、須藤弘二、星野慎二、井戸田一朗、杉浦太一、清水茂徳、近藤真規子、加

藤真吾、今井光信、市川誠一、HIV 検査・相談マップを用いた HIV 検査相談施設の情報提供およびサイト利用状況の解析、第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。

- 2) 近藤真規子、佐野貴子、吉村幸浩、立川夏夫、岩室紳也、井戸田一朗、山中 晃、武部 豊、今井光信、加藤真吾、中国の MSM 間で大流行している HIV-1 CRF01_AE variant の日本国内への拡散、第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。
- 3) 星野慎二、井戸田一朗、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾、全国保健所における梅毒検査体制のアンケート調査、第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。
- 4) 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、木村 哲、加藤真吾、HIV 郵送検査に関する実態調査と検査精度調査(2015)、第 30 回日本エイズ学会学術集会・総会、2016 年 11 月 24-26 日、鹿児島。
- 5) 佐野貴子、近藤真規子、須藤弘二、今井光信、加藤真吾、民間検査センターにおける HIV 検査の実施状況に関する調査、第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015 年 11 月 30 日-12 月 1 日、東京。
- 6) 近藤真規子、佐野貴子、井戸田一朗、山中 晃、川畑拓也、森 治代、岩室紳也、吉村幸浩、立川夏夫、今井光信、新規 HIV 感染者における年次別感染初期割合の推移、第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会、2015 年 11 月 30 日-12 月 1 日、東京。

資料1 保健所等におけるHIV検査相談に関する全国調査

	2015		2016	
アンケート送付数	565		563	
回収数	484	85.7%	469	83.3%

1. 貴保健所ではHIV検査相談を行っていますか？

	2015 n=484		2016 n=469	
はい	483件	99.8%	467件	99.6%
いいえ	1件	0.2%	2件	0.4%

「はい」と答えた保健所 → 平成27年1～12月の実施状況をお教え下さい。

① HIV検査件数

	2015 n=483	2016 n=467
検査数	87,856	75,584
うち陽性数	254	221
陽性率	0.29%	0.29%

陽性経験数

	2015 n=483		2016 n=467	
陽性者があった保健所	119件	24.6%	111件	23.8%
陽性がなかった保健所	364件	75.4%	355件	76.2%
回答なし			1件	

年間検査件数別保健所数

	年間検査数	保健所数		検査件数		陽性数	陽性率	陽性経験数	陽性経験率
		件数	割合	件数	割合				
2015 n=483	50件未満	185	38.3%	4,207	4.8%	12	0.29%	12	6.5%
	50-99件	80	16.6%	5,790	6.6%	9	0.16%	7	8.8%
	100-199件	97	20.1%	13,918	15.8%	42	0.30%	29	29.9%
	200-499件	80	16.6%	24,592	28.0%	51	0.21%	35	43.8%
	500-999件	30	6.2%	21,100	24.0%	74	0.35%	25	83.3%
	1000件以上	11	2.3%	18,249	20.8%	66	0.36%	11	100.0%
	全体	483	100%	87856	100%	254	0.29%	119	24.6%
2016 n=467	50件未満	186	39.8%	3,814	5.0%	9	0.24%	8	4.3%
	50-99件	87	18.6%	6,174	8.2%	16	0.26%	15	17.2%
	100-199件	89	19.1%	12,696	16.8%	34	0.27%	26	29.2%
	200-499件	69	14.8%	20,573	27.2%	53	0.26%	34	49.3%
	500-999件	25	5.4%	17,621	23.3%	50	0.28%	19	76.0%
	1000件以上	9	1.9%	14,706	19.5%	59	0.40%	9	100.0%
	回答なし	2	0.4%						
	全体	467	100%	75,584	100%	221	0.29%	111	23.8%

② 検査結果を聞きにこなかった受検者数：

	受検者数	聞きに来なかった	割合	聞きに来た	割合
2015	87,856人	1,699人	1.9%	86,157人	98.1%
2016	75,584人	1,825人	2.4%	73,759人	97.6%

③ HIV検査での結果確認（陰性者、陽性者別）：

	2015				2016			
	陰性	陽性	割合	人数	陰性	陽性	割合	人数
結果を聞きにきた	85,919人	238人	98.1%	86,157人	209人	97.6%	218人	94.6%
結果を聞きにこなかった	1,683人	16人	1.9%	1,813人	12人	2.4%	12人	5.4%
合計	87,602人	254人	100%	87,970人	221人	100%	230人	100%
受検者数	87,856人				75,584人			

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	2015				2016			
	全体	陽性経験施設n=119	割合	人数	全体	陽性経験施設n=111	割合	人数
ある	277	95件	57.3%	277人	274	92件	58.7%	274人
ない	190	22件	39.3%	190人	180	19件	38.5%	180人

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数

2015 n=238	208人	87.4%
2016 n=209	162人	77.5%

⑥ 発生動向調査の報告を行ったHIV感染者数

2015 n=254	143人	56.3%
2016 n=221	121人	54.8%

2. 貴保健所で行っているHIV検査相談事業の内容について教えて下さい。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

	2015 n=483		2016 n=467	
行っている	411件	85.1%	415件	88.9%
行っていない	69件	14.3%	52件	11.1%
不明	3件	0.6%		

「行っている」と答えた保健所 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください 複数回答

	2015 n=411		2016 n=415	
梅毒	319	77.6%	319	76.9%
クラミジア抗体	151	36.7%	115	27.7%
クラミジア抗原	130	31.6%	146	35.2%
淋菌	49	11.9%	50	12.0%
B型肝炎	309	75.2%	308	74.2%
C型肝炎	294	71.5%	301	72.5%
HTLV-1	15	3.6%	13	3.1%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入下さい。

		2015 n=483		2016 n=467	
通常検査を行っている		272	56.3%	254	54.4%
即日検査を行っている		328	67.9%	323	69.2%
1	通常検査のみ	155	32.1%	144	30.8%
2	即日検査のみ	211	43.7%	213	45.6%
3	通常+即日	117	24.2%	110	23.6%
483					
A	平日昼のみ検査	228	47.2%	227	48.6%
B	平日夜間検査	184	38.1%	174	37.3%
C	土日検査	71	14.7%	66	14.1%
483					
1A	通常のみ+平日昼のみ	118	24.4%	112	24.0%
1B	通常のみ+夜間も行っている	36	7.5%	31	6.6%
1C	通常+土日検査も	1	0.2%	1	0.2%
2A	即日のみ+平日昼のみ	84	17.4%	92	19.7%
2B	即日のみ+夜間も行っている	95	19.7%	91	19.5%
2C	即日+土日検査も	32	6.6%	30	6.4%
3A	通常+即日・平日昼のみ	26	5.4%	23	4.9%
3B	通常+即日・夜間も行っている	53	11.0%	52	11.1%
3C	通常+即日・土日検査も	38	7.9%	35	7.5%

③ ア通常検査の場合

A. 予約制ですか？

		2015 n=272		2016 n=254	
はい		159	58.5%	151	59.4%
いいえ		113	41.5%	104	40.9%

B. 1回あたり上限はありますか？

		2015 n=272		2016 n=254	
はい		114	41.9%	117	46.1%
いいえ		157	57.7%	135	53.1%
回答なし		3	1.1%	3	1.2%

上限がある場合、平均人数と分布

		2015 n=114		2016 n=117	
通常				通常	
平均数		11人		10人	
10人未満		73件		74件	
10-19人		22件		24件	
20-29人		9件		10件	
30-39人		4件		1件	
40-49人		2件		2件	
50人以上		3件		2件	
全体		113件		123件	

C. プレカウセリングを行っているか？

		2015 n=272		2016 n=254	
はい		265	97.4%	245	96.5%
いいえ		7	2.6%	4	1.6%
回答なし		0	0.0%	5	2.0%

D. 結果返しは？

		2015 n=272		2016 n=254	
1週間後まで		191	70.2%	177	69.7%
1週から2週間後まで		86	31.6%	77	30.3%
回答なし		4	1.5%	4	1.6%

E. スクリーニング検査 実施施設は？

		2015 n=272		2016 n=254	
自保健所		44	16.2%	36	14.2%
他保健所		30	11.0%	31	12.2%
衛生研究所		115	42.3%	101	39.8%
外部委託		82	30.1%	90	35.4%

F. 確認検査の実施施設は？

		2015 n=272		2016 n=254	
自保健所		12	4.4%	8	3.1%
他保健所		14	5.1%	13	5.1%
衛生研究所		199	73.2%	173	68.1%
外部委託		57	21.0%	63	24.8%

G. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体は？

	2015 n=272		2016 n=254	
a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する	18	6.6%	20	7.9%
b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。	6	2.2%	9	3.5%
c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。	235	86.4%	211	83.1%
採血→スクリーニング+確認検査で1本	202		162	
採血→スクリーニング検査1本と確認検査1本の計2本	25		39	
その他	9	3.3%	10	3.9%

④ イ即日検査の場合

A. 予約制ですか？

	2015 n=328		2016 n=323	
はい	266	81.1%	265	82.0%
いいえ	60	18.3%	59	18.3%
回答なし	2	0.6%	0	0.0%

B. 1回あたり上限はありますか？

	2015 n=328		2016 n=323	
はい	243	74.1%	242	74.9%
いいえ	82	25.0%	79	24.5%
回答なし	3	0.9%	2	0.6%

上限がある場合、平均人数と分布

	2015	2016
	即日	即日
平均数	13人	12人
10人未満	145件	149件
10-19人	50件	46件
20-29人	14件	17件
30-39人	14件	14件
40-49人	3件	5件
50人以上	12件	8件
全体	238件	239件

C. プレカウンセリングを行っているか？

	2015 n=328		2016 n=323	
はい	317	96.6%	318	98.5%
いいえ	5	1.5%	3	0.9%
回答なし	6	1.8%	2	0.6%

D. 迅速検査で陽性（要確認検査）となった場合の結果返しは？

	2015 n=328		2016 n=323	
1週間後	192	58.5%	164	50.8%
2週間後	125	38.1%	151	46.7%
2週間以降	0	0.0%	1	0.3%
回答なし	11	3.4%	7	2.2%

E. 確認検査 実施施設は？

	2015 n=328		2016 n=323	
自保健所	13	4.0%	18	5.6%
他保健所	8	2.4%	9	2.8%
衛生研究所	229	69.8%	213	65.9%
外部委託	77	23.5%	97	30.0%

F. 確認検査用 検体は？

	2015 n=328		2016 n=323	
迅速検査残血液	204	62.2%	181	56.0%
確認検査用再採血	115	35.1%	141	43.7%
迅速検査用と同時	58	17.7%	71	22.0%
結果通知後	53	16.2%	70	21.7%
不明	4	1.2%		
未記入	11	3.4%	11	3.4%

※2015年は、2保健所が、ケースにより残余と再採血の両者を実施

※2016年は、10か所の保健所が、ケースにより残余と再採血の両者を実施

⑤ 確認検査の方法は？（通常、即日共通）

	2015	n=483	2016	n=467
WB法のみ	167	34.6%	145	31.0%
2次スクリーニング+WB法	158	32.7%	127	27.2%
WB法+NAT法	78	16.1%	111	23.8%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	68	14.1%	47	10.1%
その他			16	3.4%

⑥ 受検者について把握している内容は？

	2015	n=483	2016	n=467
性別	482	99.8%	459	98.3%
年齢	350	72.5%	329	70.4%
年代	203	42.0%	212	45.4%
年齢・年代	476	98.6%	456	97.6%
居住地域	220	45.5%	208	44.5%
受検動機	398	82.4%	400	85.7%
受検経験			336	71.9%
感染リスク	338	70.0%	339	72.6%
性的指向	230	47.6%	200	42.8%
感染機会の時期	398	82.4%	385	82.4%
情報源	306	63.4%	304	65.1%
その他	80	16.6%	48	10.2784

上記の内容について事業改善等に活用していますか。

	2015	n=483	2016	n=467
活用している	297	61.5%	273	58.5%
活用していない	146	30.2%	153	32.8%

⑦ 結果説明等について

A. 結果説明時の担当者

		陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
		記入数		記入数		記入数		記入数	
2015	医師	191	40.5%	249	83.8%	214	59.8%	426	98.4%
	保健師	334	70.8%	245	82.5%	272	76.0%	341	78.8%
	看護師	33	7.0%	10	3.4%	16	4.5%	16	3.7%
	その他（カウンセラー等）	63	13.3%	34	11.4%	38	10.6%	118	27.3%
2016	医師	183	40.0%	243	82.9%	206	60.1%	404	98.3%
	保健師	330	72.2%	242	82.6%	270	78.7%	334	81.3%
	看護師	37	8.1%	15	5.1%	19	5.5%	19	4.6%
	その他（カウンセラー等）	63	13.8%	38	13.0%	36	10.5%	110	26.8%

迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

	2015	n=483	2016	n=467
ある	247件	51.1%	245件	52.5%
ない	41件	8.5%	31件	6.6%
回答なし	195件	40.4%	191件	40.9%

B. 陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

	2015	n=483	2016	n=467
ある	332件	68.7%	332件	71.1%
ない	139件	28.8%	122件	26.1%
回答なし	12件	2.5%	13件	2.8%

C. 陽性者への説明資料はありますか？

		全体		陽性経験施設	
		記入数		記入数	
2015	ある	379件	78.5%	97件	81.5%
	ない	96件	19.9%	19件	16.0%
	回答なし	8件	1.7%	3件	2.5%
2016	ある	386件	82.7%	99件	89.2%
	ない	69件	14.8%	9件	8.1%
	回答なし	12件	2.6%	3件	2.7%

D. 陽性者への手渡し資料はありますか？

		全体		陽性経験施設	
		記入数		記入数	
2015	ある	407件	84.3%	107	89.9%
	ない	64件	13.3%	8	6.7%
	回答なし	12件	2.5%	4件	3.4%
2016	ある	400件	85.7%	107	96.4%
	ない	47件	10.1%	2	1.8%
	回答なし	20件	4.3%	2件	1.8%

E. 確認検査で陽性の場合には届出をおこなっていますか？

2015		全体		陽性経験施設	
		件数	割合	件数	割合
2015	必ずおこなう	242件	50.1%	61件	51.3%
	ほぼおこなう	37件	7.7%	10件	8.4%
	おこなわない	31件	6.4%	12件	10.1%
	医療機関に依頼する	149件	30.8%	34件	28.6%
	回答なし	24件	5.0%	2件	1.7%
2016	必ずおこなう	231件	49.5%	61件	55.0%
	ほぼおこなう	37件	7.9%	12件	10.8%
	おこなわない	19件	4.1%	6件	5.4%
	医療機関に依頼する	164件	35.1%	33件	29.7%
	回答なし	20件	4.3%	2件	1.8%

F. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっていますか？

	2015 n=483	2016 n=467
行っている	452	441
行っていない	19	17
回答なし	12	9

対象は？

	2015 n=452	2016 n=441
全員に	361	364
一部に	89	77

場面は？

	2015 n=452	2016 n=441
検査前に	67	67
結果説明後に	97	109
両方に	264	249

具体的手法は？

	2015	2016
パンフレット、結果説明書を活用して	133	130件
カウンセリング	62	40件
予防法を中心に説明	48	45件
口頭で説明、またはパンフレット配布	32	39件
感染リスクの説明および予防法について	31	31件
説明およびコンドーム等配布		19件
リスク行動の振り返り	17	29件
アンケート、クイズの実施		13件

G. 対応困難者の経験はありますか？

	2015 n=483	2016 n=467
ある	205件	182件
ない	265件	278件
不明	13件	7件

対応困難者の紹介先はありますか？

	2015 n=483	2016 n=467
ある	88件	102件
ない	344件	326件
不明	51件	39件

「ある」と答えた保健所→紹介先は？(複数回答あり)

	2015 n=88	2016 n=102
医療機関	53件	63件
NGO等	17件	24件
その他	31件	27件

H. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？

	2015 n=483	2016 n=467
通常通り行う	379件	364件
受け付けない	件	1件
特別な配慮をする	93件	87件
→陽性時には親にも説明	25件	29件
→保護者の同意を得られているか	18件	21件
→丁寧なカウンセリング	13件	9件
→年齢により対応を考える	12件	16件

⑧ ホームページ「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

	2015 n=483	2016 n=467
ある	446件	438件
ない	34件	24件
回答なし	3件	5件

⑨ 「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

	2015 n=483	2016 n=467
思う	371件	372件
思わない	1件	1件
不明	108件	88件
回答なし	3	

⑩ 「HIV検査・相談マップ」から情報を得て受検された方はいらっしゃいますか？

	2015 n=483	2016 n=467
いる	108件	
受検者の約 10%以下	8件	22.4%
受検者の約 10%~20%	16件	
受検者の約 20%~50%	17件	
受検者の約 50%以上	10件	
わからない	371件	76.8%
回答なし	4	0.8%

⑪ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて
昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して
誤った結果を通知したことはありますか？

	2015 n=483	2016 n=467
なかった	479	463
あった	1	2
HIVについてあった	0	0
STIについてあった	1	2

以下は、2016年調査のみ

1. 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=467) 複数回答あり

	全体	陽性判明施設 n=111	
経験あり	51件	10.9%	25件 22.5%
実績はないが可能	179件	38.3%	24件 21.6%
できない	191件	40.9%	45件 40.5%
検討中	12件	2.6%	6件 5.4%
その他	20件	4.3%	8件 7.2%
回答なし	16件	3.4%	3件 2.7%

2. 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)はいましたか？ (n=565)

いない	307件	65.7%
いる	139件	29.8%
	H27	H28
→人数 5名以下	55件	86件
→人数 10名以下	4件	5件
→人数 11名以上	5件	3件
状況 針刺し事故	60件	
血液に触れた	23件	
不安	12件	

3 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みはありますか？

ない	292件	62.5%	(n=467)
ある	153件	32.8%	
→英語	99件	64.7%	(n=153)
→ポルトガル語	40件	26.1%	
→スペイン語	37件	24.2%	
→中国語	46件	30.1%	
→韓国語、朝鮮語	36件	23.5%	
→タガログ語、フィリピン語	17件	11.1%	
→タイ語	19件	12.4%	
→ベトナム語	7件	4.6%	
→ロシア語	3件	2.0%	

資料2 特設検査施設におけるHIV検査・相談に関する全国調査

	2015	2016
アンケート送付数	24	21
回収数	20 83.3%	17 81.0%

① HIV検査件数

	2015 n=20	2016 n=17
検査数	24,412	22,183
うち陽性数	129	138
陽性率	0.53%	0.62%

陽性経験数

	2015 n=20	2016 n=17
陽性者があった施設	14件 70.0%	13件 76.5%
陽性者がなかった施設	6件 30.0%	4件 23.5%

年間検査数

		施設数		検査件数		陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
2015	50件未満	0	0.0%	0	0.0%	0			0
	50-99件	1	5.0%	80	0.3%	0	0.00%	0.0%	0
	100-199件	2	10.0%	297	1.2%	4	1.35%	50.0%	1
	200-499件	4	20.0%	1,369	5.6%	9	0.66%	75.0%	3
	500-999件	8	40.0%	6,365	26.1%	19	0.30%	62.5%	5
	1000件以上	5	25.0%	16,301	66.8%	97	0.60%	100.0%	5
2016	50件未満	0	0.0%	0	0.0%	0			0
	50-99件	1	5.9%	72	0.3%	0	0.00%	0.0%	0
	100-199件	2	11.8%	242	1.1%	1	0.41%	50.0%	1
	200-499件	4	23.5%	1,668	7.5%	5	0.30%	50.0%	2
	500-999件	5	29.4%	3,923	17.7%	11	0.28%	100.0%	5
	1000件以上	5	29.4%	16,278	73.4%	121	0.74%	100.0%	5

② HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数：

	受検者数	聞きに来なかった	聞きに来た
2015	24,412人	377人 1.5%	24,035人 98.5%
2016	22,183人	471人 2.1%	21,712人 97.9%

③ HIV検査での結果確認（陰性者、陽性者別）：

	2015				2016			
	陰性		陽性		陰性		陽性	
結果を聞きにきた	23,914人	98.5%	121人	93.8%	23,914人	98.0%	128人	92.8%
結果を聞きにこなかった	369人	1.5%	8人	6.2%	461人	1.9%	10人	7.2%
合計	24,283人	100%	129人	100%	24,412人	100%	138人	100%

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	2015 n=20				2016 n=17			
	全体		陽性経験施設		全体		陽性経験施設	
ある	17	85.0%	13件	92.9%	13	76.5%	11件	84.6%
ない	3	15.0%	1件	7.1%	4	23.5%	2件	15.4%

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数：

2015	113人	93.0%
2016	108人	84.0%

⑥ 発生動向調査の報告を行ったHIV感染者数

2015	103人	79.8%
2016	119人	86.2%

2. 貴施設で行っているHIV検査相談事業の内容について教えてください。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

	2015 n=20	2016 n=17
行っている	7件 35.0%	8件 47.1%
行っていない	13件 65.0%	9件 52.9%

「行っている」と答えた施設 → 実施している性感染症検査項目に○をしてください複数回答

	2015 n=7	2016 n=8
梅毒	6 85.7%	6 75.0%
クラミジア抗体	0 0.0%	0 0.0%
クラミジア抗原	2 28.6%	1 12.5%
淋菌	2 28.6%	2 25.0%
B型肝炎	5 71.4%	6 75.0%
C型肝炎	0 0.0%	1 12.5%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入下さい。

		2015 n=20		2016 n=17	
通常検査を行っている		6	30.0%	4	23.5%
即日検査を行っている		16	80.0%	15	88.2%

1	通常検査のみ	4	20%	2	12%
2	即日検査のみ	14	70%	13	76%
3	通常+即日	2	10%	2	12%
A	平日昼のみ検査	0	0%	1	6%
B	平日夜間検査	2	10%	3	18%
C	土日検査	18	90%	13	76%
17					
1A	通常のみ+平日昼のみ	0	0%	0	0%
1B	通常のみ+夜間も行っている	1	5%	0	0%
1C	通常+土日検査	3	15%	2	12%
2A	即日のみ+平日昼のみ	0	0%	1	6%
2B	即日のみ+夜間も行っている	1	5%	3	18%
2C	即日のみ+土日検査	13	65%	9	53%
3A	通常+即日・平日昼のみ	0	0%	0	0%
3B	通常+即日・夜間も行っている	0	0%	0	0%
3C	通常+即日・土日検査	2	10%	2	12%

② ア通常検査の場合

A. 予約制ですか？

		2015 n=6		2016 n=4	
はい		3	50.0%	2	50.0%
いいえ		3	50.0%	2	50.0%

B. 1回あたり上限はありますか？

(n=6)

		2015 n=6		2016 n=4	
はい		3	50.0%	2	50.0%
いいえ		3	50.0%	2	50.0%

上限がある場合、平均人数と分布

		2015 n=3		2016 n=2	
通常				通常	
平均数		26人		43人	
10人未満		1件			
10-19人		0件			
20-29人		1件		1件	
30-39人		0件			
40-49人		1件			
50人以上		0件		1件	

C. プレカウンセリングを行っているか？

		2015 n=6		2016 n=4	
はい		6	100.0%	4	100.0%
いいえ		0	0.0%	0	0.0%

D. 結果返しは？

		2015 n=6		2016 n=4	
1週間後まで		6	100.0%	4	100.0%
1週から2週後まで		0	0.0%	0	0.0%

E. スクリーニング検査 実施施設は？

		2015 n=6		2016 n=4	
自施設		2	33.3%	1	25.0%
他施設		4	66.7%	3	75.0%

F. 確認検査の実施施設は？

		2015 n=6		2016 n=4	
自施設		3	50.0%	2	50.0%
他施設		3	50.0%	2	50.0%

G. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体は？

	2015 n=6		2016 n=4	
	人数	割合	人数	割合
a. スクリーニング検査の陽性結果を通知し、その際に確認検査用の採血を行い、確認検査を実施する	1	16.7%	1	25.0%
b. 最初に2本採血し、スクリーニング検査の陽性結果を一度通知した後、確認検査を実施する。	2	33.3%		
c. スクリーニング検査陽性の場合には確認検査を引き続き実施し、受検者には確認検査結果を通知する。	2	33.3%	3	75.0%
採血→スクリーニング+確認検査で1本	2		3	
採血→スクリーニング検査1本と確認検査1本の計2本	0		0	
その他（各医療機関により異なる）	1	16.7%		

② イ即日検査の場合

A. 予約制ですか？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
はい	9	56.3%	11	73.3%
いいえ	6	37.5%	3	20.0%
回答なし	1	6.3%	1	6.7%

B. 1回あたり上限はありますか？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
はい	14	87.5%	12	80.0%
いいえ	1	6.3%	2	13.3%
回答なし	1	6.3%	1	6.7%

上限がある場合、平均人数と分布

	2015	2016
	即日	即日
平均数	55人	55人
10人未満	0人	0人
10-19人	1人	1人
20-29人	2人	2人
30-39人	1人	1人
40-49人	1人	1人
50人以上	9人	7人

C. プレカウンセリングを行っているか？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
はい	15	93.8%	13	86.7%
いいえ	0	0.0%	0	0.0%
回答なし	1	6.3%	1	6.7%

D. 迅速検査で陽性（要確認検査）となった場合の結果返しは？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
1週間後	12	75.0%	9	60.0%
2週間後	2	12.5%	4	26.7%
回答なし	2	12.5%	2	13.3%

20

E. 確認検査 実施施設は？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
自施設	5	31.3%	4	26.7%
他施設	10	62.5%	10	66.7%
未記入	1	6.3%	1	6.7%

F. 確認検査用 検体は？

	2015 n=16		2016 n=15	
	人数	割合	人数	割合
迅速検査残血液	11	68.8%	8	53.3%
確認検査用再採血	4	25.0%	5	33.3%
迅速検査用と同時	1	6.3%	3	20.0%
結果通知後	2	12.5%	2	13.3%
未記入	1	6.3%	2	13.3%

③ 確認検査の方法は？（通常、即日共通）

	2015 n=20		2016 n=17	
WB法のみ	1	5.0%	0	0.0%
2次スクリーニング+WB法	8	40.0%	7	41.2%
WB法+NAT法	3	15.0%	6	35.3%
2次スクリーニング+WB法+NAT法	5	25.0%	3	17.6%
その他（各医療機関により異なる）	1	5.0%		
未記入	2	10.0%	1	5.9%

④ 受検者について把握している内容は？

複数回答あり

	2015 n=20		2016 n=17	
性別	20	100.0%	17	100.0%
年齢	11	55.0%	8	47.1%
年代	12	60.0%	12	70.6%
年齢・年代	19	95.0%	17	70.6%
居住地域	15	75.0%	12	82.4%
受検動機	14	70.0%	14	82.4%
受検経験			17	100.0%
感染リスク	16	80.0%	15	88.2%
性的指向	16	80.0%	16	94.1%
感染機会の時期	14	70.0%	14	82.4%
情報源	15	75.0%	14	82.4%
その他	4	20.0%	2	11.8%

上記の内容について事業改善等に活用していますか。

	2015 n=20		2016 n=17	
活用している	16	80.0%	15	88.2%
活用していない	4	20.0%	1	5.9%

⑤ 結果説明等について

A. 結果説明時の担当者

	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
	記入数		記入数		記入数		記入数	
2015	17		13		13		17	
医師	12	70.6%	10	76.9%	10	76.9%	17	100.0%
保健師	3	17.6%	3	23.1%	5	38.5%	6	35.3%
看護師	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	5.9%
その他（カウンセラー等）	11	64.7%	9	69.2%	8	61.5%	12	70.6%
2016	17		13		11		12	
医師	10	58.8%	12	92.3%	10	90.9%	11	91.7%
保健師	3	17.6%	4	30.8%	3	27.3%	4	33.3%
看護師	3	17.6%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%
その他（カウンセラー等）	6	35.3%	7	53.8%	6	54.5%	8	66.7%

迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	11件	55.0%	12件	70.6%
ない	2件	10.0%	1件	5.9%
回答なし	7件	35.0%	4件	23.5%

B. 陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	16件	80.0%	15件	88.2%
ない	1件	5.0%	1件	5.9%
回答なし	3件	15.0%	1件	5.9%

C. 陽性者への説明資料はありますか？

	2015 n=20				2016 n=17			
	全体		陽性経験施設		全体		陽性経験施設	
ある	17件	85.0%	13件	92.9%	15件	88.2%	12件	92.3%
ない	0件	0.0%	0件	0.0%	1件	5.9%	0件	0.0%
回答なし	3件	15.0%	1件	7.1%	1件	5.9%	1件	7.7%

D. 陽性者への手渡し資料はありますか？

	2015 n=20				2016 n=17			
	全体		陽性経験施設		全体		陽性経験施設	
ある	16件	80.0%	12	85.7%	15件	88.2%	12	92.3%
ない	0件	0.0%	0件	0.0%	1件	5.9%	0件	0.0%
回答なし	4件	20.0%	2件	14.3%	1件	5.9%	1件	7.7%

E. 確認検査で陽性の場合には届出をおこなっていますか？

	2015 n=20				2016 n=17			
	全体		陽性経験施設		全体		陽性経験施設	
必ずおこなう	14件	70.0%	9件	64.3%	9件	52.9%	7件	53.8%
ほぼおこなう	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%	0件	0.0%
おこなわない	1件	5.0%	1件	7.1%	1件	5.9%	1件	7.7%
医療機関に依頼する	3件	15.0%	3件	21.4%	5件	29.4%	4件	30.8%
回答なし	2件	10.0%	1件	7.1%	2件	11.8%	1件	7.7%

F. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっていますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
行っている	18	90.0%	16	94.1%
行っていない	0	0.0%	0	0.0%
回答なし	2	12.5%	1	6.7%

対象は？

	2015 n=18		2016 n=16	
全員に	16	88.9%	10	62.5%
一部に	2	11.1%	6	37.5%

場面は？

	2015 n=18		2016 n=16	
検査前に	0	0.0%	3	18.8%
結果説明後に	11	61.1%	10	62.5%
両方に	7	38.9%	6	37.5%

具体的手法は？

	2015 n=18	2016 n=16
感染ルートの確認および予防法について	6	3
カウンセリング	4	6
今までの行動を振り返り、行動変容を促す	3	2
パンフレット、結果説明書を活用して	1	2
特にMSMに対して		1

G. 対応困難者の経験はありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	15件	75.0%	12件	70.6%
ない	2件	10.0%	3件	17.6%
不明	3件	15.0%	2件	11.8%

対応困難者の紹介先はありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	8件	40.0%	4件	23.5%
ない	10件	50.0%	8件	47.1%
不明	2件	10.0%	5件	29.4%

「ある」と答えた施設→紹介先は？(複数回答あり)

	2015 n=6		2016 n=17	
医療機関	3件	37.5%	0件	0.0%
NGO等	6件	75.0%	4件	100.0%
その他	2件	25.0%		

H未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？ (n=20)

	2015 n=20		2016 n=4	
通常通り行う	12件	60.0%	10件	58.8%
受け付けない	0件	0.0%	0件	0.0%
特別な配慮をする	6件	30.0%	6件	35.3%
→陽性時には親にも説明	3件	50.0%	1件	16.7%
→本人との相談により判断	3件	50.0%	3件	50.0%
→結果により検討			2件	33.3%

⑥ホームページ「HIV検査・相談マップ」をご覧になったことはありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
ある	20件	100.0%	17件	100.0%
ない	0件	0.0%	0件	0.0%

⑦「HIV検査・相談マップ」は検査相談事業に役立っていると思いますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
思う	19件	95.0%	17件	100.0%
思わない	0件	0.0%	0件	0.0%
回答なし	1件	5.0%		

⑧ 「HIV検査・相談マップ」から情報を得て受検された方はいらっしゃいますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
いる	15件	75.0%		
受検者の約 10%以下	0件			
受検者の約 10%～20%	2件			
受検者の約 20%～50%	3件			
受検者の約 50%以上	6件			
わからない	5件	25.0%		

⑥ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて
昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して
誤った結果を通知したことはありますか？

	2015 n=20		2016 n=17	
なかった	19	95.0%	16件	94.1%
HIVについてあった	1	5.0%	0件	0.0%
STIについてあった	0	0.0%	1件	5.9%

○ 2016年調査のみ実施した項目

1. 陽性者への対応として専門のカウンセラーの派遣は可能ですか？ (n=17) 複数回答あり

	全体		陽性経験施設 (n=13)	
経験あり	5件	29.4%	4件	30.8%
実績はないが可能	5件	29.4%	4件	30.8%
できない	3件	17.6%	2件	15.4%
検討中	1件	0.0%	0件	0.0%
その他	3件	17.6%	2件	15.4%
回答なし	4件	23.5%	3件	23.1%

2. 血液暴露事故が受検動機を受検者(医療従事者)はいましたか？ (n=17)

いない	8件	47.1%
いる	7件	41.2%
	H27	H28
→人数 5名以下	2件	2件
→人数 10名以下	1件	1件
→人数 11名以上	2件	3件
状況 血液に触れた	1件	
統計をとっていない	2件	

3 日本語のわからない外国籍の人が受検できる仕組みはありますか？ (n=17)

ない	8件	47.1%
ある	8件	47.1%
→英語	5件	62.5%
→ポルトガル語	1件	12.5%

資料3 保健所における梅毒検査に関する調査

アンケート送付数	563	
回収数	469	83.3%

1. (1) 貴保健所では梅毒検査を実施していますか？ (n=469)

実施している	327件	69.7%
実施の予定	13件	2.8%
実施していない	127件	27.1%

1. (2) どのような条件があれば実施が可能となりますか？ (複数回答 (n=127))

自治体本庁の方針であれば実施する	94	74.0%
職員の増員	31	24.4%
予算の増額	54	42.5%
受検者の定員削減	0	0.0%
医療機関の協力・連携	24	18.9%
梅毒即日検査相談のマニュアル配布	31	24.4%
必要性を感じていない	3	2.4%
その他	12	9.4%

「梅毒検査を行っている」と答えた保健所のみ (n=327)

2. (1) どのように実施していますか？ (複数回答可)

HIV検査と一緒に受けられる (無料)	275	84.1%
HIV検査と一緒に受けられる (有料)	44	13.5%
梅毒検査のみで受けられる (無料)	110	33.6%
梅毒検査のみで受けられる (有料)	47	14.4%
回答なし	3	0.9%

2. (2) 梅毒検査の方法と1年間の検査数・陽性数を教えてください。

【STS法】 (n=327)

RPRカードテスト	236	72.2%
自動化法	23	7.0%
実施していない	17	5.2%
回答なし	54	16.5%
検査数	37,625	
うち陽性数	463	
陽性率	1.2%	

(n=259)

陽性者があった保健所	127件	38.8%
陽性者がなかった保健所	131件	40.1%

【TP抗体検査】 (n=327)

通常検査で実施	229件	70.0%
即日検査で実施	61件	18.7%
回答なし	43件	
検査数	33,744	
うち陽性数	846件	
陽性率	2.51%	

通常+即日 6件

2. (3) 検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？ (n=327)

結果説明のみ	77件	23.5%
医療機関を紹介	206件	63.0%
STS法を実施し、後日結果通知	1件	0.3%
その他	50件	15.3%

2. (4) 検査時間帯は？ (n=327)

1回 /月末満	12件	3.7%
1回 /月	55件	16.8%
2~3回 /月	97件	29.7%
4回 /月	148件	45.3%
5回 /月以上	10件	3.1%
土日実施している	18件	5.5%
夜間実施している	100件	30.6%

2. (5) 予約制ですか？ (n=327)

はい	210	64.2%
いいえ	112	34.3%
未記入	5	1.5%

2. (6) 有料の場合の費用は？ 有効回答 = 79

500円以下	14件	17.7%
500～1000円	25件	31.6%
1000～1500円	0件	0.0%
1500円～2000円	40件	50.6%

2. (7) 結果返しは？ (n=327)

即日	64件	19.6%
2日～1週間	179件	54.7%
1週間～2週間	85件	26.0%
2週間以降	2件	0.6%

3. 問題点、課題等

検査の2週間後に受検者から電話してもらうことで、性感染症検査の告知を行っているが、H2811月～12月の間では42%が未告知であり、性感染症検査の結果が伝わらない。
梅毒検査相談担当者のスキルアップ
H29.1月から月1回実施しているHIV即日検査に梅毒即日検査（IC法）を追加して、2項目同時検査に変更実施する。梅毒のIC法は補助金（特定感染症等事業）の交付対象外となっているが、梅毒の増加とHIV検査受検者数が減少しており、梅毒の早期発見および梅毒検査を実施していくため、補助金対象にしていきたい。
受検者が少ない、検査の周知が課題。
匿名の検査であるため、検査陽性者の受診やその経過まではフォローできない。匿名での検査であるため、検査陽性者からの求めに応じて医療機関の紹介をすること等は可能だが、陽性者が実際に受診をしたか、およびその治療経過等は把握することができない。治療中断者に対する受診勧奨等も不可。
結果を聞きに来ない人がいること。
治療終了後に検査を受け、陽性になった場合（RPRも）判断が困難である。1回だけの検査では。
特に20代女性をターゲットにした予防啓発の充実が課題。（感染予防、検査の必要性等、疾病に関する情報）
HIV検査と同時実施のため匿名となっている。陽性者が結果説明に来所しない場合のフォローが難しい。
自覚症状等ある場合には予約時点で直接医療受診を勧めている。
即日検査でないため、検査結果の未返却が生じやすい。
外国語の対応がパンフレット等を介してしかできない。
特にありません。医療機関でSTI検査を無料で実施できる制度があれば、潜在患者も広く救い上げることができるのではないかと思います。
結果を聞きに来られない受検者もいるため、陽性者が出た場合に確実に受診につなげられない可能性や、予防行動につなげられない可能性がある。
当所ではHIV検査を即日検査で実施している。その際に梅毒検査の結果は1週間後に伝えるため、梅毒の検査結果を聞きに来ないものがある。
HIV検査（迅速）とのかねあい
匿名実施のため、受検者から連絡がない場合、結果も伝えられない。
後日結果をお電話でお伝えするため電話のない受検者に結果を伝えられないこと。
行政検査のため無料、匿名検査ではあるが予約制である。
検査のアクセスのしやすさで考えると保健所での検査は有益であるか。今のところは医療機関の検査でよいと考える。
HIV同様、相談者が徐々に減少している。
実際の症状、治療の状況など情報、知識が少ないので一般的な話ができていない。
梅毒に特化した説明パンフレット等があれば活用したい。
現行のHIV、HBs抗体、HCV抗体検査同様、保健所で実施するのであれば、梅毒検査も匿名可、無料検査とすることが好ましく、相談する立場からは検査を受けやすくなると思うが、陽性の場合は治療が必要となり、保健所で検査実施後、医療機関へも受診する必要があるため、受検者の負担は逆に大きくなるのではないかと。
臨床検査技師が1名配置となっており、病休等で不在となった場合、検査業務を休止しなければならない。
梅毒紹介時に病院先の選定に苦慮。診療を受けてくれる病院が少ない。

1. (2) どのような条件があれば実施が可能となりますか？（複数回答「その他」回答

本市では保健所ではなく区役所で実施しています。7区役所中2区役所でHIV、梅毒、クラミジア実施
梅毒検査とその判定に十分習熟した検査担当者が必要と考える
体制（非常勤、検査の流れ等も含め）
即日検査の性能の問題
今後検討予定
県内では広島市のみ実施しており、県内の状況をみながら考えていきたい
検討中
検査部署との調整
医療機関受診を勧めている
医療機関で実施可能な検査は医療機関で受けていただく方針である。陽性の場合医療につながりやすいため
HIV即日検査を実施しているため
HIVは即日だが梅毒は即日で結果がでないため。同市内他保健所が実施している。

資料4 特設検査施設における梅毒検査に関する調査

アンケート送付数	21	
回収数	17	81.0%

1. (1) 貴施設では梅毒検査を実施していますか？ (n=17)

実施している	6件	35.3%
実施の予定	1件	5.9%
実施していない	10件	58.8%

1. (2) どのような条件があれば即日検査が可能となりますか？ (複数回答可) (n=10)

自治体本庁の方針であれば実施する	4	40.0%
職員の増員	0	0.0%
予算の増額	4	40.0%
受検者の定員削減	0	0.0%
医療機関の協力・連携	1	10.0%
梅毒即日検査相談のマニュアル配布	2	20.0%
必要性を感じていない	0	0.0%
即日で信頼できる試薬がある場合。	3	30.0%
検査体制の整備、制度管理	1	10.0%
HIV即日検査イベントと同時に行いたい、即日に結果を返すことができない	1	10.0%

「梅毒検査を行っている」と答えた施設のみ

2. (1) どのように実施していますか？ (複数回答可) (n=6)

HIV検査と一緒に受けられる (無料)	6	100.0%
HIV検査と一緒に受けられる (有料)	0	0.0%
梅毒検査のみで受けられる (無料)	0	0.0%
梅毒検査のみで受けられる (有料)	0	0.0%

2. (2) 梅毒検査の方法と1年間の検査数・陽性数を教えてください。

【STS法】

RPRカードテスト	3	50.0%
自動化法	1	16.7%
実施していない		0.0%
回答なし	2	33.3%
検査数	6,665	
うち陽性数	428	
陽性率	6.4%	

(n=6)

【TP抗体検査】

通常検査で実施	4件	66.7%
即日検査で実施	2件	33.3%
回答なし	0件	
検査数	1,471	
うち陽性数	413件	
陽性率	28.1%	

(n=6)

2. (3) 梅毒検査が陽性であった場合どのような対応をしますか？

結果説明のみ	3件	50.0%
医療機関を紹介	3件	50.0%
STS法を実施し、後日結果通知	0件	0.0%

(n=6)

2. (4) 検査時間帯は？ (n=6)

1回 /月未満	3件	50.0%
1回 /月	1件	16.7%
2~3回 /月	0件	0.0%
4回 /月	1件	16.7%
5回 /月以上	1件	16.7%
土日実施している	2件	33.3%
夜間実施している	4件	66.7%

2. (5) 予約制ですか？ (n=6)

はい	4	66.7%
いいえ	2	33.3%

2. (6) 有料の場合の費用は？ 6件とも無料

2. (7) 結果返しは？ (n=6) 複数回答あり

2日～1週間	3件	50.0%
1週間～2週間	1件	16.7%
回答なし	2件	33.3%

3. 問題点、課題等

看護師不足
HIV検査は即日検査を行っており、梅毒検査の結果が出る時間的な差がある。梅毒の即日検査は制度について課題があり、導入は検討していない。
HIV検査は迅速検査で実施しているため、梅毒検査も即日検査であれば同時に実施しやすい
HIV検査は迅速検査で実施しているため、梅毒検査も即日検査であれば同時に実施しやすい
H29年4月から月に2回実施しているHIV即日検査に梅毒即日検査（IC法）を追加して2項目同時検査に変更、実施予定。梅毒のIC法は補助金（特定感染症検査等事業）の交付対象外となっているが、梅毒の増加とHIV検査受検者数が減少しており、梅毒の早期発見およびHIV受検促進のために、需要のある即日検査で梅毒検査を実施していただけるよう、補助金対象にしていきたい。
梅毒の診断や治療を受けていないが、RPR(-)TPHA(+)という場合がある。風邪等で抗生剤を処方された結果、RPRが陰性化した可能性が想定される。